

## グリーン・リカバリーに向けて

JICAは地球環境とそこに暮らす人々のためにさまざまな協力を実施しています。 このコロナ禍を通じ初めて認識できるようになった課題に対しても、 開発途上国と連携しながら取り組んでいきます。



ブルキナファソ:足踏み式簡易 手洗い器での手洗いを教える海 外協力隊員。新型コロナウイル スなどの感染症拡大を予防する ためには、適切なタイミングと 方法による手洗いが重要である。 JICAは、開発途上国における さまざまな事業に手洗い設備の 設置や衛生啓発活動を組み込み、 感染症の予防、健康増進、公衆 衛生の向上を目指している [写真:飯塚明夫]

## 課題の概要 地球環境とつながっている私たちの社会

コロナ禍により、地球環境と私たちの社会、生活がど のように結び付いているかが改めて浮き彫りになりまし た。経済活動の影響による環境の変化や生態系のかく乱 などが人獣共通感染症を増加させる懸念、国境を越え移 動する感染症や環境汚染物質、それらを予防するために 重要となる水・衛生管理、感染症をさらに増幅しかねな い災害――。これら複雑に関連しあう課題への対応は、 新たな時代を見据えて、脱炭素など気候変動に対する取 り組みともあわせて世界中で加速しています。

#### 戦略

#### セクターの壁を超えた協力

新型コロナウイルス感染症の拡大により明らかになっ た社会的・経済的な脆弱性の克服を含め、JICAは強靭



対象とした地域の総面積(日本の面積の約1.3倍) (2014-2019年度)



JICAの支援で安全な水に アクセス可能となった人々 (2011-2020年度)

途上国が抱える課題への取り組み

な社会システムを再構築する「Build Back Better(より 良い復興)」を目指しています。今後の協力案を策定し、 気候変動対策や水・衛生・環境・防災に重点を置いた横 断的な取り組みである「グリーン・リカバリー」※の展開 につなげていきます。

具体的には、以下の実現に向けた活動を推進、支援し ます。

#### 1. 健康で安全な都市環境

健康で良好な都市環境を維持すべく、水・衛生管理、 環境管理に関わる行政や公的機関の能力を強化し、環境 負荷の少ない循環型社会の実現に向けた協力を行います。

#### 2. 安全な水の供給と水資源の確保

人々の命と健康、経済活動を支える水は「人間の安全 保障」の観点からも重要です。水資源の確保・管理、お よび人々に安全な水を届ける水道事業運営に対する協力 を行います。また、感染症予防のためにも、衛生・手洗 い啓発活動を積極的に推進します。

#### 3. 人間活動と自然環境の調和

自然環境の減少と劣化を防ぎ、経済活動などの人間活 動との調和を図ります。自然環境からのさまざまな恵み を享受し続けられるよう、地域の伝統的知見を生かすと ともに、関係行政機関の能力向上と地域住民との協働を 通じて、持続的な社会の構築を目指します。

### 4. 防災の観点を取り入れた強靭な社会の構築

事前防災投資の推進を通じ、災害による死者・被災者 数や経済損失の削減を目指します。また、新型コロナウ イルス感染症のような脅威にも対応していける強靭な社 会づくりにも防災の観点から貢献します。

### 取り組みと実績 緊急時にこそ届ける協力

開発途上国では人材や技術、資金が十分ではない状況 が多く、コロナ対策において緊急を要するにもかかわら ず、都市のロックダウンなどによりさまざまな困難に直 面する事態が多く発生しました。日本においても緊急事 態宣言が出され、コミュニケーションや移動に制約がか



#### 住民の持続的な生活を支援

東ティモール:土壌改善・環境保全に配慮した傾斜地農法で栽培 したメイズを収穫する住民。同国では、近年、森林資源の減少・ 劣化が著しく、その主な原因の一つとして、焼畑耕作が挙げられ ている。JICAは、「持続可能な天然資源管理能力向上プロジェク トフェーズ॥」を通して、定地型有機農業を推進している

かり、事業推進にとって非常に厳しい状況も生じました。 しかし、コロナ禍においての生命・健康維持のためにも、 エッセンシャルワークは止めることができないとの認識 から、2020年度は次のような活動を展開しました[→P.50 事例を参照ください]。

- ●都市衛生の維持に不可欠な廃棄物管理サービスの持続 性・能力強化に関する協力(サービス従事者の衛生安 全の確保、医療・感染性廃棄物の適正処理に向けた協 力活動の追加など)
- ●水道事業体に対し、消毒用薬品、維持管理用資機材、 浄水場運転用の燃料などの調達や、手洗いなどの衛生 啓発活動などの協力
- ●根本的な災害リスクの削減に加え、危機管理の一環と して、コロナ対策にあたる防災組織に対する対策資機 材の供与

このような都市機能の維持とコロナ対策との関連性に ついての各種調査研究なども迅速に実施しました。

また、グリーン・リカバリー、人獣共通感染症の観点 から自然環境保全の重要性を再認識し、新たな協力の検 討を開始しています。

<sup>※</sup> 気候変動対策、環境対策に重点を置き、持続可能な社会の再構築を目指すコロナ禍か らの復興の考え方。

# PROJECT

## エッセンシャルワーカーを守りコロナ禍に立ち向かう

#### 物資支援と啓発活動を展開

人々が社会生活を送るうえで欠か せないエッセンシャルワーカー。新 型コロナウイルスの感染拡大で重要 性が増していますが、開発途上国で は衛生物資が不足し業務の継続が困 難な状況に置かれています。

そこでJICAは、各国で実施して いるプロジェクトを通じて、必要な 物資を迅速に提供するとともに、衛 生に関する啓発活動に協力しました。

例えばバングラデシュ、パレスチ ナ、スリランカでは清掃・収集事業 者など向けに防護具を供与しました。 特にバングラデシュでは「南北ダッ カ市及びチッタゴン市廃棄物管理能 力強化プロジェクト」のなかで、彼 らの安全を確保するためマスクや手 袋なども現地で調達。また、感染防 止対策リーフレットとポケットサイ ズのマニュアルを作成し、遠隔で衛 生指導も実施。さらに一般家庭向け にリーフレットを作成し安全なごみ の捨て方などを周知しました。

モザンビークでは新型コロナ感染 症の勉強会開催とポスター制作に協 力。他人が捨てたマスクの再利用が 問題となっていたため、ポスターに



「ハサミで切って捨てましょう」とい う言葉を入れ、廃棄後の手洗いもあ わせて指導しました。また、日本政 府やJICAなどが設立した「アフリカ のきれいな街プラットフォーム」で は、感染症対策を盛り込んだ廃棄物 管理ガイダンスを作成しました。

#### 水道事業や防災協力とも連携

JICAは水道事業の一環として、ネ パール、タジキスタン、パレスチナ、 ケニア、スーダン、南スーダンなど

で必要な消毒用薬品や維持管理用資 機材などを供与し、手洗いにも欠か せない安全な水の供給を支えました。 またエクアドルの「地震と津波に強 い街づくりプロジェクト」や「中米広 域防災能力向上プロジェクトフェー ズ2」では、新型コロナ感染症対策 にも対応する防災機関に、医療従事 者向けのマスクや防護服などの衛生 物資を供与。感染予防活動の現場や 病院などで働く、多くのエッセン シャルワーカーに活用されました。

#### VOICE

#### コロナ禍でも安全な水を供給できました



南スーダン 都市水道公社 総裁 ヤポール・クオール・アワールさん

JICAから燃料や薬品を支援してもらい、 コロナ禍でもジュバ市民に安全な水を供給 できました。マスク、手洗い・衛生用品は 水道公社の職員の安全に役立ちました。こ うした緊急支援に加え、紛争で十分な教育 を受けられなかった職員への研修など、熱 意ある辛抱強い協力に感謝しています。

#### **VOICE**

#### コミュニティ防災体制が機能しています



中米広域防災能力向上プロジェクトフェーズ 2 元JICA専門家 JICAニカラグア事務所企画調査員 竹林あゆ美さん

コミュニティの自主防災組織や市の防災 担当者が、コロナ感染予防、食糧支援、緊 急対応業務で淀みなく協力し活動している 様子は、プロジェクトで築いてきた防災体 制の機動力が発揮したことの証だと感じま した。JICAはマスクやゴム手袋、消毒液 などを現地調達しその活動を支えました。

# PROJECT

## 途上国と共に海洋プラごみ問題に取り組む

#### 急務となる途上国での対策

近年、国際的に深刻な環境問題と して取り上げられている海洋プラス チックごみ。主に陸域で発生したプ ラスチックごみが適正に処理されず 河川などを通じて海に流出し、生態 系を含む海洋環境の悪化、観光や漁 業への悪影響、沿岸域の居住環境の 悪化につながると懸念されています。

プラスチックごみは、数百年から 数千年間にわたり分解されず蓄積し 続けると考えられており、世界全体 で対策を進める必要があるなかで、 特に環境対策が十分ではない開発途 上国での対策が急務となっています。

JICAは長年行ってきた廃棄物管 理への協力に加え、この問題の解決 にも積極的に取り組んでいます。

#### 地域一体で解決目指す

2020年度から東南アジア諸国連 合(ASEAN)域内の海洋プラスチッ クごみの削減に向けた国際共同研究 「東南アジア海域における海洋プラ スチック汚染研究の拠点形成」が地 球規模課題対応国際科学技術協力プ ログラム(SATREPS)としてタイで 始まりました。この分野で世界を リードする日本と、深刻な都市ごみ 問題を抱えるタイが協力し、ASEAN

京)とAEPW(シンガポール)

部を抱える中南米の国に対しては、 プラスチックの海洋流出の現況と、 日本企業が持つ技術を活用した協力 の可能性を検討するための調査を実 施しました。今後、この地域を対象 にアドバイザーを派遣する予定です。

## のモデルとなる行動計画をタイ政府 に提案することを目指しています。

またJICAは、海洋ごみ対策を担 う人材を育成するため各国の行政官 を日本に招へいするなど、大学や地 方自治体、企業などでの講義や視察 を通じて国際社会や日本の対策を包 括的に学ぶ機会を設けています。

さらにカリブの島嶼国や長い沿岸

#### 強力なパートナーシップで問題解決に挑む **VOICE**



#### 廃棄プラスチックを無くす国際アライアンス Alliance to End Plastic Waste(AEPW) 穴田武秀さん

廃棄プラスチック問題は複雑で、バリューチェーン全般に関わる すべてのステークホルダーの協力が不可欠です。2021年6月時点 で私たちは多様なパートナーとの連携により世界で30以上のプロ ジェクトに取り組んでいます。JICAとの強力なパートナーシップ は問題解決に計り知れない良い影響を与えると確信しています。

#### 国際的なNPOとも連携

JICAは2021年3月、「廃棄プラス チックを無くす国際アライアンス (AEPW)」と連携協力覚書を締結し ました。AEPWは廃棄プラスチック 問題の解決に取り組むため世界中の 政府機関、環境·経済開発NGO、 市民社会と連携する国際的なNPO です。互いの強みやリソースを活用 しながら戦略的に廃棄プラスチック の問題に取り組み、循環型経済の形 成に貢献しています。